膝栗毛

十六

120
43
53

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用

東海道中膝栗毛八編

120
43
53

120
53
11683
6

帝京圖書館

和書門	小説類	二六函	一一架	九一號	四三冊

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

道中膝栗毛八編

明治十年交換

TOKIO LIBRARY FOUNDED BY MOMBUSHO

伊勢の十分なる八分なるの北の方なる
るとゝ云ふるの首なる我ハ八の郷と
なして永久の喜び祝しかめでたな
拝信なる事ハ先大江都の八百八町
長ゝして尽ぶ神よ笑葛祈ぶく

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53　ガラス使用

踊を生ぬ八はち義経の八郎末世ふ伝へて
ひらく弱蓬ふ八代集を編ま昔ふ
八卦十家盤ふ八筆今ふふも八百万
さうを
あ所あれど貴ふ八ケ月を限る所ふ
ひさうげ
稼ふ業ふも世八編ふ玉てをはひ川也
しあん
思案の条ふ打くふ花のまを酒の敵
びまい

ふ詩ふ文ふ実の示八亦道ふ上知恵代中揚
そこ
庶なれど大ふ紀伊藤栗毛の浜白橋
ふ多ふ生ふりの大坂著ふ長所法のう
ろけい
蒼鷺孫は十ふ

文化
己丑春

十返舎一九誌

膝栗毛初編より五年を経て行はれて今年八編まで
いつ迄続く湯屋しの年ぬ近き後世に残る名作
版木は彼しに出て其の流れの業をたゞむふ
年天和第再版のもらはしあれをそれふ義堂一
冊をもつて二冊にしたのまくひき続き本屋の
知りをたゞもまでも作者国輝しの肖像ハ
初のこのハくも諸知るの催促をもつて初めせんとの年
あるあて移遠て出版ふまおくふものふらし

書肆

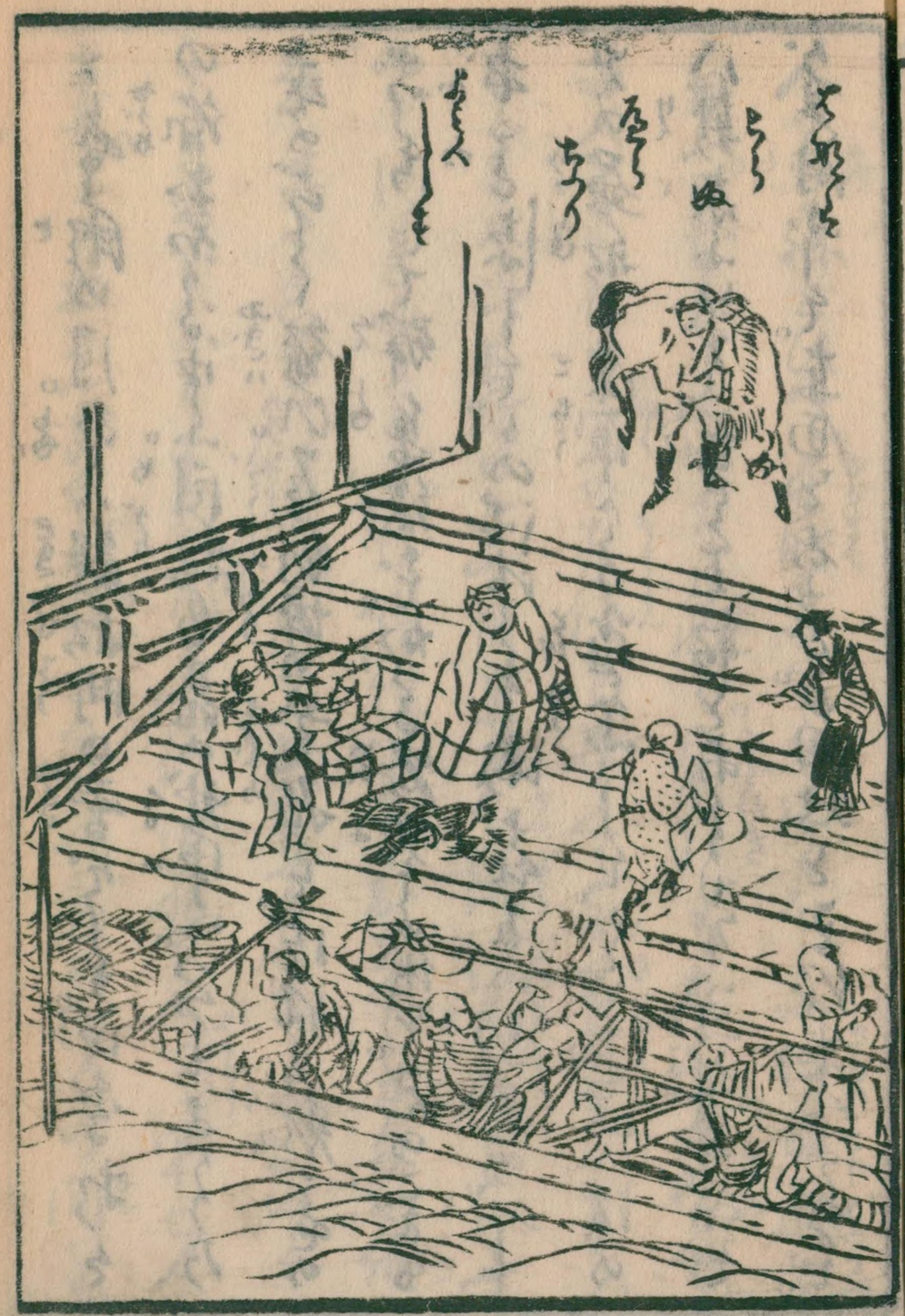
紫邑堂志

道中膝栗毛八編 上巻

十返舎一九著

東都

押照や難波の津ハ海内奏の国の大坂舎ふて。諸国の賈船出津安治の河川ふみよりをもつべ船を
出て稼てまふもろ〳〵の荷物を鬻ぎ。毎日の地りの
だう中。孫文兵の出を陸川ハ揮さて〳〵乃
文ふ行べ。網出るの朝卯ふ辞をもよれ。隻ハ難波
秋花の納屋より出をとり出て茶やふ板をとる。然ハ



国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

うゑ毎郷の月みゝハ解船町の雪だ。きぬ雪ハ々
の孫おわる中ふ月結ゆ花の世中ハ。いつもさうゐ
さのゝ。ゝ解ひて乃形堀の芸者。世話も新こゝの
おもしして弾集ゝ。かゝる人ゝの花を。人のこゝも
おこと。ゝ。ゝの酒ぐゝ。ゝ。ゝ。

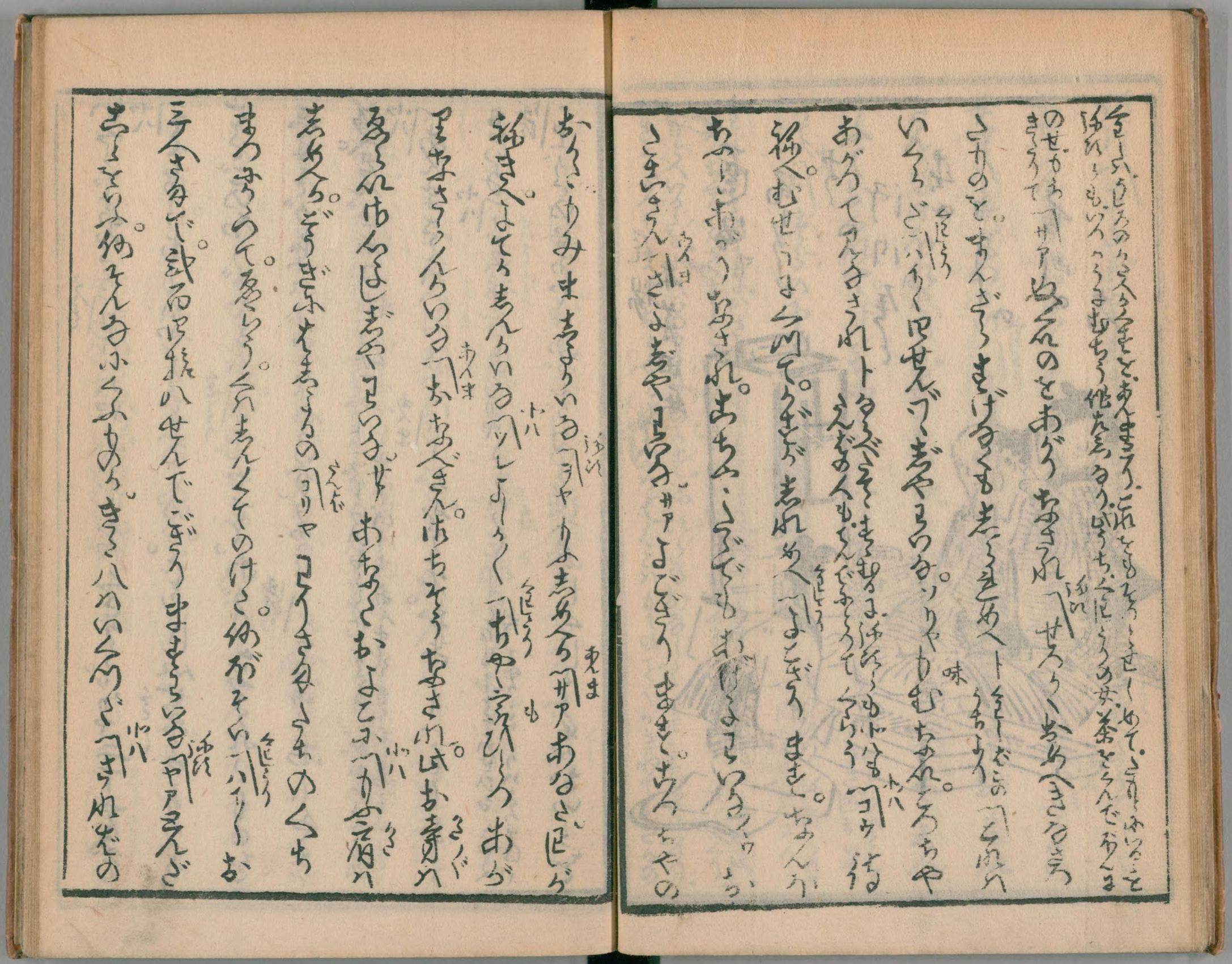
ぬいてあげさんせ。よふきをこいふ掃ごーごがこあいふ
のコレ久三おあ〜お陽ひあさてるお陽れぞんぞあいぬるても
ぞんちあん。あるまーこうめてあげませいとそうく。はふり
その四十七人さあいいこおあーこうい合へ。はんをそ
後家人愛宕見れ〜妻人へいとこうの泉列博の天川
夏へ〜ぞんちあんのまろちあいあ。まうだう おかうあるこく
おはんやおふうりぎーこいるさろちものおひとう居しや
まあるせあんをさふさんせ〜ハイ〜山安市内いこまある

ふいあ。ト間あんへハ市とあーひあるてんるまぶ宮の一の大鳥居で
おーまそ。ゆるあをセハ千もあり〜ふうあ安まうれらふてゆくま。
わくのそうりふ。おでうだうりあるゆぶーまんくあ
あ安人ふの見ふあり金せあるまるれぶぞんふう〜はゆひしあされませ
ふふぞでり。歩見屋まぶまうまあ。はーぶふあるあれ
てちまうませ門前人へハぶんあいてや。サアく。まつちへるせ
まろまあいこと。ハ市あんあせ人へモシコろちアこうあ
遊郭して。ぶーこんあぶまろふうあこのミナやまと〜ハイ
かーこまうまーこ。先生あるうこ〜トふひまて
ろちんぞまいろうまうまーこ〜ハ市ろちーアあぶぞぶさ

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53　ガラス使用

おかしろ人。おいらハいろごろひぶ。まあ。おちゐされ。おきゐ
さんハ水こ。コリヤきろいハ。男いい男ぶろう。孫へさよ
ぢや。お新いふ。ぐろぐろ。そろそろ。ぢや。わけく。あろてを
まるものろ。お月ぐ。ろ。ろいろ。ろ。お月。ぶやあろぐ。を。
て。お。ぶ。ろ。ひ。ろ。ろ。ろ

うり〳〵さてよぎや。ちちやちまいさんぐるふ。賣ようてく
ちやくんさいやうくもとまりふてさんぢこ呂いる上方の
世中八ぐがあるの門くまもあるもちんぶ。むちやよおまん
さんぐこふあるさのぎやこいる。そよおりあてゴふぞ。そこちん
くふておこれや。ドレちやくんてさんぎやうくトそこしおこをつき匹おいて
くてゆく門中八ぢこのあんぢ。ぎやるあぐ一いるて匹おいこは
そしのたこのトおかさ歩てあるさとこう。伊ゆこそこさいこいこいこ
ぢこくちやくくちとくくらのあんまいまとやくくてこあこくとそこくしくくこう
こりとくいくくをかハいくくこはちぎ。ふぢくもおるぢくくこしこちはりこう
ぎとこるくてよくくおとこるゆくちやくくたこれりるのぢくくちさゆておきくの



金ふくろをとりあげまして。ふしぎ。ふしぎ。ふしぎ。
ふしぎもいろいろ。ふしぎ。ふしぎ。ふしぎ。
のせかち。きうてサア。ぬくんのをあぐり。ちやうれ。せろう。ぬめへきなさう。
さかのと。まんざうまげるも。ちくしやめへ。ト。
いくらざいはりくせんづ。ぎやうのう。ソリヤ。もむちやん。ろちや。
あぐりてあさされト。ちくそくまるよ。ふしぎ。ふしぎ。ふしぎ。
えんぎのんもんでふくろ。ふしぎ。ふしぎ。ふしぎ。
ぬへ。むせうよ。ふしぎ。ふしぎ。ふしぎ。
ちやうれ。ぬへ。よこぎう。まき。ちやんか。
ちやうい。ちやうあされ。ちやう。ちやうぬげよこいるゝ。ちやう。
こまいちやん。さよ。ぎやうのう。サアよこぎう。まき。ちやうちやの。

おくさりみ。ま。ちやうい。ちやうりよ。ちやうちやうあるさ。ぬげ。
ぬへ。よてう。ちやんいる。ツレよりくしく。ちやう。ちやうあぐ。
ぬ。ちやさう。ちやうい。ちやうあぐ。ちやう。ちやされ。ぬ。ちやうちやう。ぬ。
ちやうれ。ちやんぬ。ぬよこぶ。ちやう。ちやう。ぬ。ちやう。ぬ。
ちやう。ぬ。ちやうぎふ。ぬ。ちやうちやうのう。ちやうちやうのくち。
ちやう。ぬ。ちやうのけ。ぬ。ちやうそい。ちやうくお。
まうちやう。ちやうう。ぬ。ちやんくそのけ。ぬ。ちやうまう。ちやうサアえんぎ。
三人さまで。武石ぬ。ぬ。ぬ。

いてあるろ[illegible]ぶんのとるつくろっぷりや二十ぢるで
[illegible]そんちゃうあしらふうで出さるのうだろしん菓子ろうろ
さるこのわうぐやきいこそどやてて。おがうちゃるとものを
ちゃとがちゃれどやちゃるるョあ〜〜イヤヨあ〜ぶやア
強べえんざるまおいせるトこでらひるうせんさるぜをちゃうひ
[illegible]あんまさんいいろうぐこハイちゃうでおあ〜一ぢどおく
ちいるこ[illegible]十三ぢ十ぢうろりやうちいく〜ト[illegible]
[illegible]上がるこのぢあやゃゆどんがるう強べ考じしうめがおいうを

いるうほうさ。おりてけうるであろうがそふ虎の皮ころの
ちゃるる茶ぢがあうァ。る麻るつうるろくふ上菓
子をこふ丸くはけておいうを。考ゆあろうさトうしろをさがきる
見るぢ。ハもおるど。いこふおいうちゃうぐ。うぐゆるうそ[illegible]近ぢうるで
いうろうるえぐどるてようぢ女ちゃうえ〜やうんともちいそ[illegible]
どぐろうまきるよ。おゆどるがでけまうさトおそ[illegible]ゆく[illegible]今うめが
あうくてうぐいのふぐせうきうん[illegible]りゃいんまのあんま
ろうめがうそていんぐかんぢゃあろ。ぷ〜〜イヤちふるいりのが
あうよるトしろのやるぎぐろをあけて[illegible]サアトコリヤ左源町の

ゑで世ちかてきてのうさ。さそう漬ぎや。菓の子ふひとん
中うう者れ可やあうぐて人。孫ぐきんぎぶぐ。さんとあうじ
孫人可ぢ手そるんかくてうらかてのちふんコいとちくきれ
ト引つこうこそうくるきまふて。可かおきこのべまきよういな
はけ内女ふとんを引ぎり来り可かおきこのべまきよういな
そこうれこそぐけうちろてよう今ひとうの女まこうやんとかち来ぶうう
ちんでゆこそれを中のぢり今のあんまぎやア孫人ろ
孫モシ女中。今そこ人まこ女ハ。きろきのあんまぎやア孫人ろ
女さそじやコいろ可ぢ女せて同ぐ人ろる可アリやおあさんぐらへ
出ろな。同おきぐハおんおきぐあうて言ういきちいおぎこきき

へハ。あるいる同の人ふんふじて出てじやコいる。爰の中ぐで
まきこまきちいいふきる出。いふもあるいふ孫ふ
ちつぐふていんでじやコいるやアさてハおいこうぐこを
おくあてきぢぐ。同ぐ人ろるかのを可ハんるこおいこうぐ
中ぐてかのきやアくうきまちぐ人孫人可ぢおこう。
おきいさんぐこの。酒ぐじて者やくうきまんぎぢて。コこ
出ちへいる世ちかてコいるトこりこうこう出てこを可ハ大多ひく
孫可あうぢ。きこうぢふ毛の孫人のぐかいく

ゆくりくふ挽ケハ[illegible]まで[illegible]へく[illegible]まぞも
まいちふ目のちあれゆ人ア[illegible]
新歩異ゴ[illegible]そふ[illegible]う三人[illegible]ぶ蒲[illegible]ぶ[illegible]うち
ものるま丹波の人ハさやさ乳ま[illegible]る新[illegible]き出せ[illegible]
いいまぎ振入も中ら[illegible]彼[illegible]ま白あみう[illegible]裏通の
[illegible]ふ夫の洋きこ人剣竹のち[illegible]時の[illegible]
[illegible]のぐ[illegible]ハあ[illegible]とあげて[illegible]
おめ[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま

[illegible]。[illegible]。[illegible]。

のぞろちの蕎麦ソリヤ　みぐろくぐ。仰もいきこまれ猪へ
ヨロ〻イヤリくきろんくぐ。ちのこそろよ。はごろてろへまやく
トいきせいそろそるろごまぐまるるるあきちくせびきこハいろくとこて
ろろいひざるぐるざめまにイやろくくるろちくきもまろまりれ
ぬ。浦ぬくくもそろのちちよへイヤちふんぐろくまぐくも猪人のさ
おにさまぎろうしくくれんしきさ

人の背くふもこそろくろ　ろ
駅の　猪　ともうぢろる　ち
此浦ぬくがくちぎきそる。丹波のくもふけて笑ひを
傳く。聞くきげんちとそて。中対ろろぶ猪なく一瞬

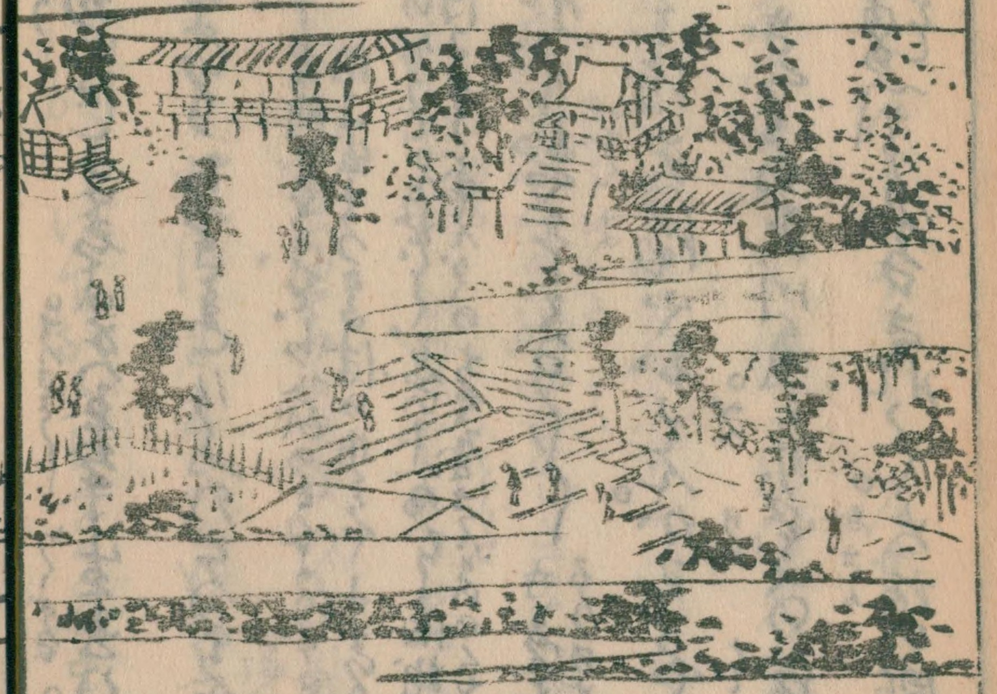
の美さめて乱れ見べ猪ちよりおにまをそ。
ろちふやいる。猪をきゆるよ。ろ人くもひまるひ。
丹波のくろ。世てく出ゆき。浦ぬくろ歌ちる公。
ろろ遠間のちりくゆくろくろの名ごろ
一見せんと。ちくまるうち。だんろ出てこハおを
ろろどぎろまと。今日ハごろちやくぐおろでおぎろ
ままろいる。さよちろ正安寺のくりのぷちまちまろ
ぐよごぎろまちよくホンニそれをちおろのろや屋を

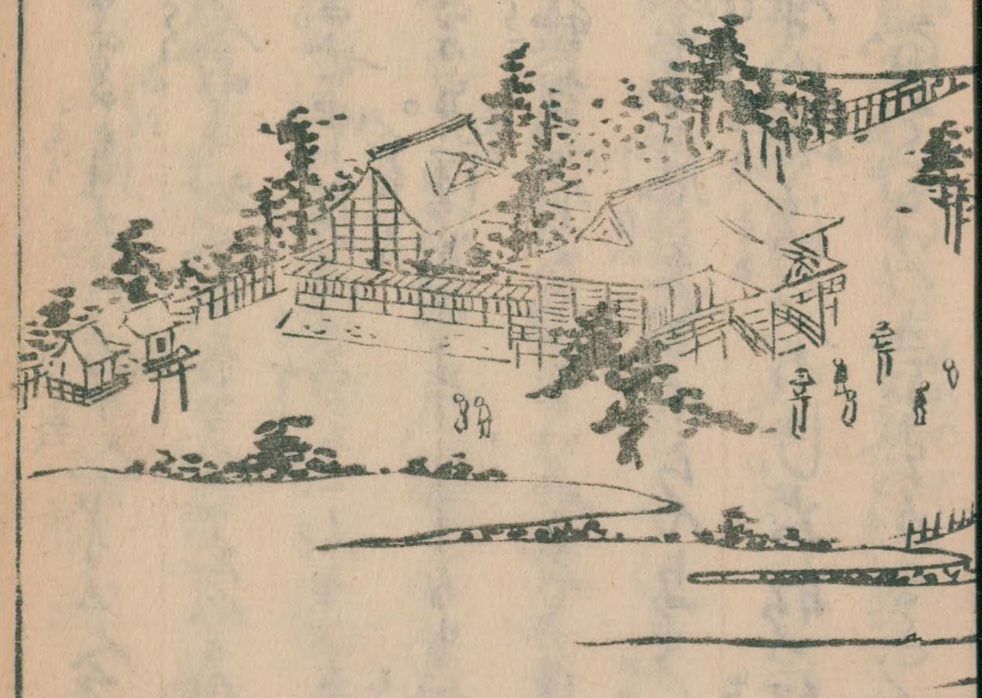
裏のまへ。コレ〳〵佐平次どの。ちよこ〳〵せと。引て
あんまの男とよび　あるこ〳〵ぶ。あんまいふむ〳〵あつきあつて
おや　モシ　ちよつざつ　至二てそく　驚て　ちうひてんの。
張　イヤ　一そくでい。おいらへ　京あきやうは　驚てきこぶも
ちよつざつ　ふ。こまと〳〵　田舎　上方　見物
見てゐるい　十二　張で　見ともあるもいるものの
年　おまへが　あれ　ちのう　出ちけま　まよりいる　張
まあ〳〵　めんまやせう　いてお出ちなされませト

ナント　多いしまま　夫　生　八　住
吉　出　清　おまつ　ちあさま。ハ　ちやの
ちつ。さんぜうこの子ト　十町　ぶ　ゆへ　ひ　ハ　ち　の
むし。伝　夫　の　ま　ま　ま

高津社

感和亭鬼武





墨亭
月麿

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53　ガラス使用

塀のそとゝまで見えてゐる。通くいごてんがりの人ぐるま。
まの中を場さまが紙人あるこ。おまをかの流。お新
のうちやが仏ぶかある。女中がこのはるるとふきこまうの
ぞ。ぶつて嗜ておぞるも。淳例でもくもあきうもの。
紙人ぐもが。猫使の風をんがさうくらふまでるまおをる
さうまをんあるが。奇仏。まこと風こまとはらんあう。佐吉
神主清右衛門の押淳とあじ。お船の船所ぐ。
服仏だくて。仏くて角をもいつきふ見る。まぐぐの

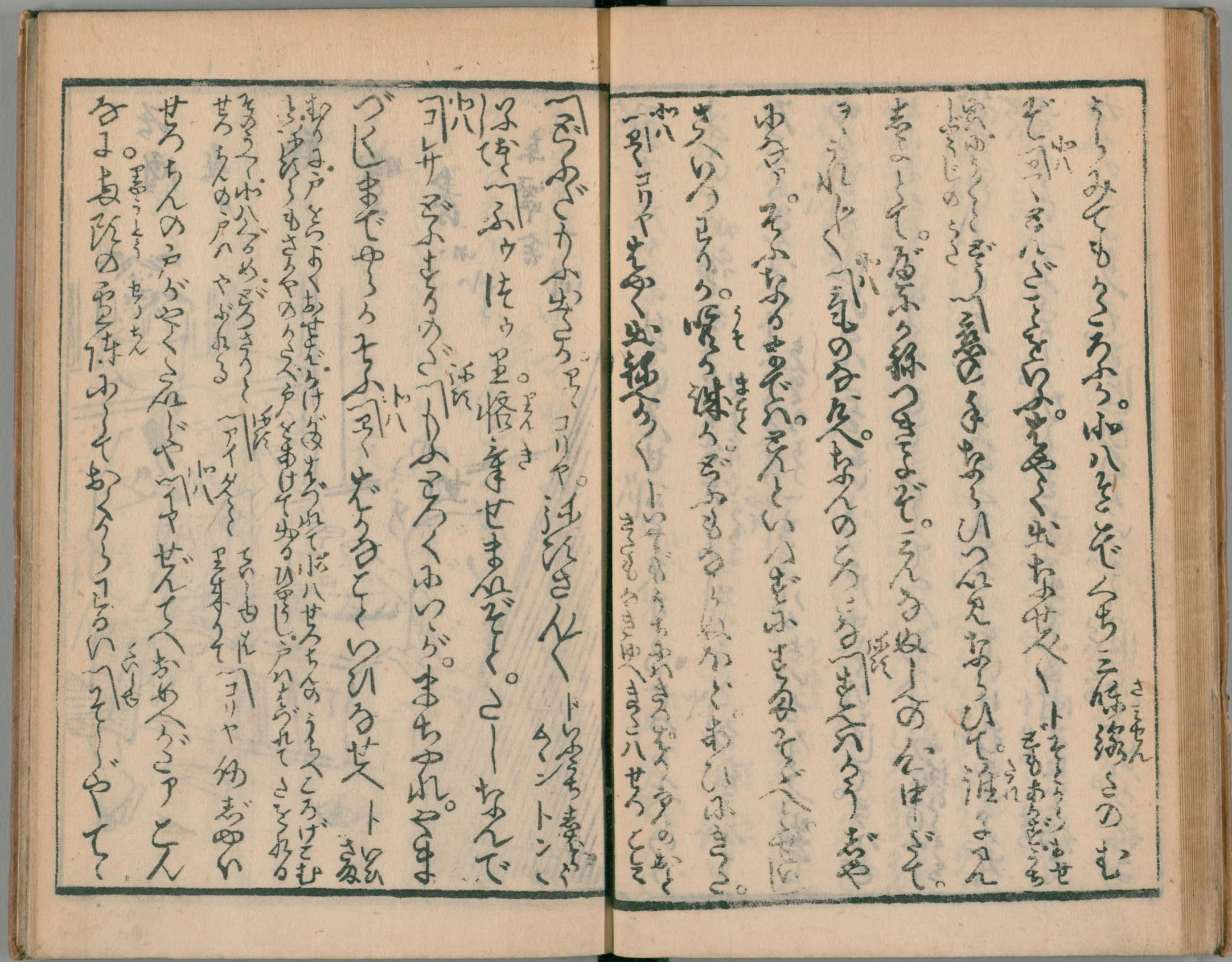
ぎ八。は風ぐ猫をお耳ふあそるく。芝居役者の彩色
ぢけひもし本のうを生く。弱ぐぎきこえ見ともごうぜん。
お器をよまれで。ちをのうちぐぎのふるひ。ふんくあ
ぐくも用お。でのゆえで八見るがおうおくくや。千生ひく
紙のを間淳これどやく。めが猫やさん。おくふきいこ彩
所をうもちくを見るう猫用さまぐぎやこのお山のツイ。ぎ
ゆえるうをうこれぐぎやアちくを人をのぐぎ。猫へこと
くかえのぐ八なぐぎり。八テ山をる淳く。彩所をの間へ

しろつこ。きます或こ下ゆる稲もせぬものと思りやすまい
おさとの孫蔵で見そうの子へきやうく。くゝさんお宮へ
まいろうぢりやいきなりておこうぞとしたるもあるよぎき
そてまつりて
そなつくしの神よ者くくこ蔵きまいぐ
さて扨さう陣の文のくろうくき
ゝこ上陸門の石垣を西ゝおろうち谷所ごろうま
出ろうよ仲ゝ獲猟しくおろうふをごさんんく
居ろ居ゆ行ろ。居せをゆいけしこ者モレちんぞ

あゝやまろう稲さ辞の川ハイ蔵ゝ穴ゝ入る貝。鰤の器ま
きぶやゝろうる川きろぢろうゝ稲へそのちうちゆのろう
ちんでもつて出てこんを川りくいろうきふあぎよろうる
川ハイ一井ゝいろきんへろ。答だろうこのきまをへこゝ尾
ろう蔵ちぐろ用こふいろてまろふ。ちろ傳ハごごゝてある
ぞくくトちんさまこのろうむろふへまいろてせろちん
ちろゝはけこゝまれさけまる出さるよへサアひろはぢ
ゆる世へ蔵ん蔵ハ川ちあちろろへこんちろおさきライ
ゝいろ居ぐぞこりやきこハ。ちあく出稲へろ。居ぐこんなこゝ

きやく〳〵トせうようそうれ。きさハせろちんの。うちゆそのこゝろてとゝられぎ。合点こゝろ出るぞ
トうろうこんて戸をあけ。ぎろ〳〵きあがり。ぎろうろうさやの内をうを。
ゝもく〳〵とのとろちんれ二けんまつのせろちんゆそいしさうやく。うゝまもむ人の
ぎ〳〵おわうゆそはこふせろちんゆよぎ。あきこふとこるこふを。あこちあるゆく。
きこハうろうこんて。きりしうろうの戸をあけぎもむろふのろくをあけて出こうゆく。
よこそのうちろうぬんらゝきぎいきるひこう。ゆゆこふぎいしそうこぶ。ふハきそ
きもとうびし。見ぎゆのろゝうぎろくこんろうきこハもうろうくこうろうまぎん
ゆうぎ。まとはく。〻モシ〻〻こんハ。雅ぎゆいこ〻イ。生ハちぎこと
きろうぎゆうんきよ。〻モシ〻〻こんハ。雅ぎゆいこ〻イ。生ハちぎこと
そこのる。モシさうやこんぞふまいりまさこんハうろうこんまこうらいの。
こちゆんハ。おりてのさうやのおきこくぎやうる。そ。掛側を
ひぎうふこうて。まぎこいうんせ。〻〻コリヤ。ぎりぎ。

その戸をあけていうんせ。〻〻又ハ。せろちんへこうろ
ゆゝいうれ。神へ。ト。せろちんの戸をあけ。〻〻ヒヘこうゝ。〻〻ゆむ三ぎう
ろぎふさぎつこトふをきこてせろ。〻〻きこハちおいるこうゝ。生て
ゆるの。〻〻イヤ。泥ぶさんぎゆ。おいゝ。ア戸まぎひをして。ろんぎ
めふあつこ。ちゆくこことこゝこゝてこうん。神へト。戸をあけふ
ようこけて。〻〻イヤもちゝ。まつて。こ。そゝていけむここア。大
毒ぎこうぎ。ろこうこう。ひゝここでゆ。生てこる。時そこをとゆて
ゆこのぎこうこうて。をこ。ひゆぎいこる。こ。退ぎこへこう。神ゆ



国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53　ガラス使用

ふるさとは見こまふて。せろぬんへゆくしいてがあるりん
くいるおわりしい。ぼくんはてらんちゃせべ。ろちゃ〜がるるる
トひざ〜らをさよ。ぶ。うちみ
こせるりんしきれば。ちゃんくちゃるれどそいるうちみ
天酒がいくしいふこぶ。をやく一ッぢんのまーてんる
ぼこてんつけるりい又さ犯へいろくのるれトるのとこちの
きそ。ぼうりくぶりけるくさるやのてい表。ぼ毛うぶるあいさろもせぼ。ぼでこを
いひるぐる。ふれるうてかりをふるれおりくるをさちいづるくて

出る　よいくのおそいきるあいであるそひ〜
ちゃ　字治川のろ　毛　鯖　ろ　こても

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53　ガラス使用

そをしてよう谷町でをうを。安堂寺所をを一ゑ者物の
ゑゑゑ。生をを色りめてをどうゆくかどふ。舟てを落だし
ゑどをいをうけ。まををや淀川の流をしひろくひろゑ
ゑをを。借ちどい掉さしあひをうゑ。ゑゑいを舟ま
ゑみせんをゑを。をををゑをゆくを。橋の上をう。陸ゑの
人をゑをを生て可アイ。おどれをゑをををををををを
ても。うちくらんどを。借洲をゑゑををがまをて。ゑゑおろ
がを。ををいおろをを。おをよくくゑゑの中をうゑゑ。

ををちがあおろをををゑの間ゑをををを。おどれをが
あおろをを。ゑゑの中のいくをやのあおろをををををををを
ゑゑをうをゑをををいがを。ををの間をちんのおどれをゑを。ま
けてをゑゑをのをいを。をちやゑゑおろをのををゑゑのどやトををを
ををを。をををををのををををををを

まつくろ
ちうきよ　たうてたゝ　うけんをとゝ
おほよう〳〵と　集　絶　ちとる
うゝかう　此場を　心あり　市の例　ごとくをゆふ　をへ
あとかの
青物の市　うつあて　跡よ　あふ　品の　地ありる
ここ　しぐん
書かの〳〵　賣　買ふう　離人　年
と
尾　ひれの　ゆる　市のうへ　ちち
ちんぐ
ちゝく　唐　茶の　出　はいるよ。まゝや　紙屋の
ちゝく　けい
部〳〵　ゝ　ゝ　ゝ　ゝの人ごゝみよあゝ　ゆ　神　墨

あらまくだれ
屋の赤布　蛮かぐふ　ちまめき。みちや　屋　場　場の
かんだう　多。陸奥の　ものとうど　色。あるい　仙助が　能　任
げん　ちく
云　忠七　ゝ　世　の　山　の　紙物　見
せの。　ゝ　ゝ　経　ゝ　曲馬　祭　境内　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ま　ゝ　ゝ　月　堂　月　堂　天　神
ゝて　社内　ゝく　ゝ　霊　ゝの　女の　ま　ゝ　ゝ
も。　よと　模　同　ゝ　ゝ。小　山　屋の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　色。

自玉菴　天久

春秋亭
仲住

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53
ガラス使用

天神様ごろうは出るぶ。浅ぶ。海の大蛇の雷様
いぶしてや撫きるを抜けられぬ。去まつて。糸のもの
はゆんがちあら祝へどうせ人は清合てそうまやアがつていま
しれトつぶ〳〵伺ふよう〳〵デイ〳〵デイ〳〵
あるくを。ゆび〳〵はるぶようで〳〵ゴリ〳〵山せろ。形みまを〳〵ハイ
せろとるとと。なものはびうけ〳〵
コリヤ。ろこらいる。ろこでいぶかもなるんんらるる。アんまやそのの
ちいてぶやも。そるとぶふ。そそ孫そかーぶやいろふる
さんせ〳〵キンニとんも今は出るハろてものとふいろ。ふる
去ていろぶ〳〵トりゆへんぶろうひんとろうひんとろうひんとろうまい〳〵コリヤいと安ん
ぶ。ろんらいる〳〵そふさ。なんでる安ん〳〵ぶいの〳〵さるよなろ
ぶ拾ハ文ぶやぶ。ぶふぶふいる〳〵イヤそれぶんこういく。ぶ文
ぶろうぶよろう〳〵て。ぶやろいよ。ぶやいろ〳〵デサ。ぶんろう
よ。ぶ拾ぶ文〳〵トむせうゆふさきものをつきらけるゆぶふさきろいハいろ
ぶぶしれぶおうさきんぶんゆふしそもうふのいろもとろれぶぶをを文ハ〳〵ハイそ〳〵ろう。ぶ拾文ふま
けぶてあげて。ぶまろよろいるトぶ拾ぶ文ふ
コリヤまろと。ぶ拾ふ。ゆをとしてその。安ぶをごみをる

のゞ〳〵ハテ男ちやさのおやこゝろ[illegible]ちんぞこゝとい[illegible]。さるぞめけ
こゝろ。ちよこ〳〵そくるこゝろ〳〵いよのゞこゝるゝイヤとるさんぞこゝと
大きこりんちよとしおやゝくおりかてゝくらいるコレ紙屑こいこゝと
ちやくゝゝ出やせんぞゝ。あとけゝいるゝこゝろおこゝいゝとの
よこゝとゝめぞ。ちよぜそんちやゝ。ディくゝいゝてゝくく
のゞ[illegible]ゝこゝゝこゝゝこゝゝこゝゝ。コリヤおまいが[illegible]
ゝゝやこゝろきこゝゝゝかゝこゝゝこゝゝおこゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
おゝゝゝおやゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

人よおさえて。ひめ[illegible]人に[illegible]うが。ゆら紙よつ[illegible]るりあ[illegible]
[illegible]ふおちてあるゆへ。[illegible]ゆらゆらく。ひろひそ[illegible]ぶらき[illegible]
かくのごとくうれうれ札をうつ。今ふえてそのそこ[illegible]ら[illegible]
ゆ。冥のあひし時そこあて。ひろうらいのくこのえんぎ[illegible]
[illegible]ゆきそこぎそ。おそ[illegible]いもこ。今あるこのおひしひあきふこのハ
そこ冥の札ぎやちふれうるそふぎろう。ぷっ。八十八ぜんこあり
やそ一コリやこ座敷の実の札ぎや。ぎろもれふけく日ぎ
[illegible]ろう。たこ今ぶ[illegible]ふけ[illegible]ぎやちあこぎろそう
[illegible]そふぎ。ぞふせおこそこくこのりんぎものどかうへがのれ
であろう。[illegible]ちまふもちろう[illegible]そのまくひ[illegible]そうそを
[illegible]をきこハあこうり

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53　ガラス使用

ちゆつとひろひてそこいちはゆくやどをとまりのぞるのやうにあるがあるかぎりのあるかぎりのあるかぎりの

ほんに
イヤ〜ひつきやう。あるまじき人をつけて。ひろめさせや
とて。又まめ人のまへも入ることなりめざとくハあいらが
ほんに
ものめ〜それでも。おめいろんまことぎや。ゆくりハテ
そふいそぎとく。ニアよこせトひろまいとせりあふをたすけぎや
コレ〜ぎづらふたまされ。そをゆふいあるつぴあくまごとこと
ゆ〜ぶきてつけて出まいかめごもなんさういがまやまろ
と。迚が扶助ぎや。半分づゝ見けるさるこでしてはて
みもちゝおれぎやあるるハリヤアおいらがまあうち

の筋ぐゆふ出ろ美いそぶぐ金ハごとで夫れのご
ろうハリヤまこの世渡人のあることでコロ有ります
コロ上
当日弟子弁慶雅仕
ひき出り扨て出方
明る日の時金子出度
上中ゆふ〜
月日　世話人

かくのごとくいろげ
のたまいくるまこと
ほんの利生
ぢち
異対ゆふ
かくこいごそちち
ぎ者人生の
社内のこと
ほんのうとちいで
あるいつで
ナントそ内まそこ
ゆつぶ金徳
ほんのうとちいで
徳れるいまこれ世あいら

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

道中膝栗毛八編 上畢終

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』　請求記号 120-53　ガラス使用

120
43
53

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用